

校内研究の取組について

短い梅雨が明けて、暑さが増したように感じます。皆様、お元気にお過ごしでしょうか。

6月14日のボランティア清掃には、早朝にもかかわらず、多くのご家族の皆様に参加していただき、誠にありがとうございました。普段は手の届かない場所もきれいにしていただき、学校全体がすっきりとした環境になり、週明け以降、気持ちよく過ごせています。ありがとうございました。

夏休みまでの前期前半も、14日間の登校日となりました。暑さが心配ですが、熱中症対策を講じながら、元気に過ごしていきたいと思います。7月もよろしく願いいたします。

さて、今回は、本校の校内研究について紹介します。

研究は、3年計画で実施されることが多く、本校でも、本年度より新しいテーマで研究を進めることになりました。研究主題は、

「心豊かで実行力のある子供」育成のための認知・非認知能力統合的アプローチ

です。本校は、本年度創立150周年という大きな節目を迎えました。これまでに築き上げてきた教育実践を基盤としつつ、AI時代をたくましく生きる子供たちの成長を、滋賀大学教育学部との強固な連携のもと、この附属小学校の教職員と子供たちだからこそ実現できる、他に類を見ない新たな研究を作り上げたいと考えました。本研究は、教育目標「心豊かで実行力のある子供」の育成をめざし、認知能力と非認知能力の相互作用を、具体的な授業実践をとおして追究するものです。

教職員の教育への情熱と子供たち一人一人の可能性が織りなす学びの営みこそ、私たち教職員が最も大切にしたいものです。予定調和的な授業展開ではなく、「学びの中動態」という概念を核に、滋賀大学教育学部の知見と附属小学校の実践の互いの強みを活かし、子供たちが主体的な学びをとおして変容していくプロセスを、描き出していきたいと思います。具体的には、認知能力と非認知能力を認知スキーマ（個人の知識構造や経験に基づく精神的な枠組み）の観点から統合的に分析することをおして、動的な学習プロセスの中での子供たちの学びの本質を捉え、一人一人の成長を最大限に引き出す、この場所でしか生まれない授業を創造することをめざします。

「学びの中動態」とは、子供たちの主体的な学びを重視する教育アプローチです。現代社会が直面する予測不能な課題やAI時代の到来といった変化の中で、従来の学力観だけでは捉えきれない、より本質的な学びの在り方を明らかにする、不可欠な学力観です。この学力観は、単に知識や技能の習得に留まらず、学習者が予期せぬ出来事や偶発的な出会いの中で学びを柔軟に変化させ、新たな知識や意味を創造していくプロセス、そして全人的な成長を促す学びを捉えることをめざしています。本研究では、「学びの中動態」と教科教育における資質・能力育成の接点を深掘りすることで、未来の学びをより豊かにする実践的な知見を導き出したいと考えています。

本日も、研究授業が2時間ありました。3年体育科と6年社会科です。子供たちの「いま」から想定される学びのプロセスを描いた学習の中で、子供たちとともに学びを共創できたかどうかについて、学びの姿をとおして検証します。

